**令和５年度第２回岩国市環境審議会の結果について**

1. **会議名**

令和５年度第２回岩国市環境審議会

**2　開催日時**

　 令和５年10月３日（火）　午後2時00分から午後3時30分

**3　開催場所**

　 岩国市役所６階　全員協議会室

**４　出席した者の氏名**

　（委員）

　　藤野完二（会長）、木村圭一（副会長）

　　河本智勇、樋口隆哉、福田博一、宇野勝子、藤谷允子、角貞明、後田雅伸、木村繁

　（事務局）

　　環境部長：神足欣男、環境政策課副課長：木原陽児、環境企画班長：藤本龍吾、環境企画班：江頭遼

　（担当部署等）

　　環境事業課　課長：米原正和、企画室長：青木肇、企画室：山田寛、重村紀幸

　　株式会社東和テクノロジー　清水文雄、中村由幸

　（関連部署）

　　環境施設課　課長：古本健二郎、下水道課　課長：瀬戸正義、都市排水施設課　課長：長津信之

**５**　**議題**

岩国市一般廃棄物処理基本計画の策定について

　**６　公開・非公開の別**

公開

**７　傍聴人数**

**０**人

**８　会議内容概要**

　《審議等事項》

岩国市一般廃棄物処理基本計画の策定について

（会　長）

それでは会議を始めたいと思います。

本日は委員12名のうち、現在、10名にご出席いただいております。岩国市環境審議会条例第６条第２項の規定であります、過半数の７名以上の出席により、本日の会議が成立していることを報告いたします。

次に、会議録の署名委員として、藤谷委員、後田委員に署名をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、本日の議題について、担当課から説明をお願いします。

～担当課（環境事業課）から

　　（１）報告事項　①ごみ組成調査結果の概要　　②アンケート調査結果の概要（速報）

資料に沿って説明～

（会　長）

ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

（委　員）

資料１のごみ組成調査結果の中の、「金属類及び破砕ごみ」の組成内訳において、「（金属破砕ごみとして）適正排出」と「小型家電製品（回収ボックス対象）」が分けて表示されています。ごみの出し方としてはどちらも適正だと思うのですが、小型家電製品はできれば使用済小型家電回収ボックスに出してほしいという意図で、分けて表示しているのですか。

（担当課）

充電池内蔵の小型家電製品を金属破砕ごみで出されると、処理施設等での火災の原因にもなりますし、また、資源のリサイクルという観点からも、小型家電製品は、市役所や出張所に設置してある回収ボックスに入れてもらうようお願いしています。

（委　員）

　金属破砕ごみのうち、回収ボックス対象の小型家電製品が、約10％という割合になっていますが、回収ボックスで回収される小型家電製品の量と、実際に収集ごみで出される小型家電製品の量は、大小としてどういう関係ですか。

（担当課）

回収ボックスを全地域に設置できれば良いのですが、ある程度のところしか設置できていないので回収量は多分低いと思います。回収ボックスに入るものはボックスに入れてくださいとお願いしていますが、まだ周知できていない部分もあると思います。

（委　員）

　回収ボックスまで、わざわざ持っていくというのは、抵抗があるように思います。

（担当課）

充電池内蔵の小型家電製品は、金属破砕ごみとして出されると困りますので、回収ボックスでも出せますし、資源品での持ち出しもできます、ということの周知を継続していきます。

（委　員）

市民アンケート調査についてですが、回答者の年齢構成をみると60代以上の方が６割以上となっており、比較的高齢の方の割合が多いようですが、過去の調査と比べても変わらない状況なのですか。

（担当課）

若い人からの回答が少なく、年配の方が多いように思います。

（委　員）

郵送調査となると、若い方からなかなか回答してもらえにくいというところなのでしょうか。

（担当課）

70代以上からの回答が、５年前のアンケート調査では37％であり、今回の調査では44％と、高齢の方の割合が増えており、高齢化社会が進んでいる影響があるのかもしれませんが、若い方の回答率が低いのは残念です。今後、調査するにあたっては、若い方からも回答してもらえるよう、ＬＩＮＥや市民アプリなどの方法も検討したいと思います。

（委　員）

アンケートの回答で、興味を持ったのが、問46の「今後、家庭から出るごみの量を減らすことが可能と考えますか」という質問に、「減らすことが可能」と感じている人が意外に多いなというふうに思いました。先ほどの年齢構成の問題はあると思うのですが、やはりごみを減らさないといけない、というか自分がもっとできるという意識を持っている人が結構いるということかな、と思いました。

（担当課）

そうですね。新プラ法の対応もありますので市民意識のアンケートを分析して、どうしたらごみを減らせるか、今後いろいろ協議したいと思います。

（委　員）

今回の「今後、家庭でごみを減らすことができる」という市民意識について、具体的に何を減らすことができるのか、というところまでの回答データがないので、今後の調査では、そのあたりまで探れれば良いように思います。

（担当課）

そうですね。今回の調査でごみを減らせるという市民意識があることは分かったので、具体的に何を減らせるかというところを、いろいろ考えていきたいと思います。

（会　長）

ほかに質問はございますか。

（委　員）

資料１のごみ組成調査結果の中の、「プラスチック類」の組成内訳において、「汚れの付着した容器包装プラ類」が11.3％となっていますが、市民から出される「汚れの付着した容器包装プラ類」のうち、サンライズクリーンセンターで焼却されている割合は何％なのか、わからないのでしょうか。洗っても汚れが落ちにくいものは「焼却ごみ」で出せるということが、もっと市民に浸透すれば、この数値（11.3％）が減るのではと思ったのですが。

（担当課）

「汚れの付着した容器包装プラ類」のうち、サンライズクリーンセンターで焼却されている割合は何％なのか、具体的な数値は把握しておりませんが、広報いわくにやホームページでも、焼却ごみで出せることを周知したいと思います。ペットボトルなどを焼却ごみとして出されると困るので、その辺は周知の仕方も工夫したいと思います。

（会　長）

ほかに何かございますか。ないようでしたら、次の説明をお願いします。

～担当課から

（２）審議事項　①数値目標値の見直し　②前期計画期間において実施する施策　③計画の骨子（案）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　資料に沿って説明～

（会　長）

何か質問ございますか。

（委　員）

食品ロスを減らすことについて、おたずねします。

ごみの削減の中で厄介なものが、生ごみ、いわゆる残飯の処分です。岩国市ではなかなか難しいのかもしれませんが、地域によっては農業に再利用したり、資源化したりというようなことをやっているところもあるようです。

食品ロスについては、資料１のごみ組成調査結果の中の、「焼却ごみ」の組成内訳において、削減可能な食品ロスとして、食べ残しが1.2％、手付かず食品が4.1％とあります。

これを、今後どのくらい減らすのかということで、資料３－２の収集ごみ削減目標値の中で、一人一日当たり出すごみの量について、令和４年度の実績で553グラムのところ、手付かず食品の削減等に取り組むことにより、令和20年度には480グラムまで減らすという目標を立てるということですね。要は、食品ロスに関して、食べることができるものがある（削減可能なものがある）ということですね。

これは、個人だけで行うのはなかなか難しい。岩国市には「子ども食堂にこにこ」や「おひさまカフェ」、「玖珂たすけあい食堂」、「とりでこども食堂」などがあり、山口県の食品ロス削減推進協議会というのもあって、いつだったか山口県立大学の先生も来られて一緒にやっておられました。こういった個人で行うことが難しいものは、やはり行政が中に入ってやっていかなければとは思うのですが。

私がお聞きしたいのは、具体的にごみ削減、特にそういった中でも食品ロスの削減をどのようにするのか、そういう見通しというか、今の段階で、市はどのようにお考えですか。

（担当課）

フードバンク活動や子ども食堂については、生活支援課と協議しているところですが、まだ食べられる食品の有効活用について今後どういった方法が良いのか話を進めています。

また、家庭での生ごみ減量化を推進するため、生ごみ処理機の補助金の増額も検討しており、いろいろな方法を模索しています。

（委　員）

食品ロスの削減については、ごみを減らすという視点だけでなく、まだ食べられる食品の有効活用や食の支援といった視点もあって、環境部門だけでなく福祉部門などとの連携も必要であり、要は、行政が縦割りにならずに取り組むことが大事です。

（担当課）

ごみを減らすことだけでなく、食べられるものがあればどこかで有効活用できないかなど、庁内のいろいろな部署と縦割りでなく横断的に調整を進めており、今後もより良い方法を検討します。

（委　員）

よろしくお願いします。

（担当課）

岩国市にも「フードバンクいわくにステーション（岩国市社会福祉法人地域公益活動推進協議会）」が立ち上がり、その時にも庁内のいろいろな関係部署と協議をしております。食品ロスの視点だけでなく、福祉や生産の視点もありますので、今後も庁内での連携を図っていく必要があると思います

（委　員）

総合的に取り組まないと、なかなか難しいと思います。

（会　長）

ほかに何かございますか。

（委　員）

資料３の数値目標値の見直しについて、既定計画でなかなか達成できなかったところを踏まえて、今回設定しなおしたということなのですが、参考資料３－２で、ごみ排出量の将来推計があるのですけれど、目標値をどういう考え方で設定したのか見えなかったのでお聞きします。

目標値の設定について、例えば、各ごみの種類ごとにこういう対策でこれぐらい削減できるというのを積み上げて設定したのか、あるいは全体でこれくらい減らしたいという値があってそれを目標としているのか、設定の考え方について説明をお願いします。

（担当課）

参考資料３-２に、ごみ排出量の将来の見込みの出し方を示しています。それぞれごみの種類ごとに傾向を分析し、単純推計を出し、それに減量効果を検討して、焼却ごみや資源ごみに対する減量効果を設定して、将来見込みを出しています。

（委　員）

減量効果分というのが、市の施策としてこれぐらい頑張っていこう、ということですね。

（担当課）

そのようになります。

（委　員）

資料４-２の施策９「スーパーマーケット等における減量活動」の施策手法として、「回収協力店を増やすために、新たな店舗への協力依頼を検討する。」とありますが、回収協力店というのは、容器包装ごみの回収協力ということですか。

（担当課）

そうですね、食品トレーであるとか牛乳パックなどの回収協力店です。

（委　員）

その場合、お店の方が回収に協力するとなると、お店が責任もって実施するということになる訳ですね。

（担当課）

スーパーでそういった回収をしていただいて、自社ルートで処分されているスーパーもありますし、中にはリサイクルプラザへ持っていかれているスーパーもあります。（注：店舗からリサイクルプラザまで、市が運搬している。）

（委　員）

お店の方が自社ルートで処分されても、結果的にはリサイクルになりますし、市民にとっても利便性が高くなるのではないでしょうか。

（担当課）

そうですね、店舗に積極的に回収してもらった方が、市としては助かりますし、リサイクルも進みます。

（委　員）

一つ気になるのは、完全に民間の方に行ってしまうと、その流れが見えなくなる。

（担当課）

そうですね、そこが怖いところと思っています。

（委　員）

できれば、その辺りで情報共有できる形が必要では。

（担当課）

店舗によって情報を頂いたりしているのですが、店だけでやり取りしているのなら把握が難しくなくなりますので、そこがちょっと怖いところだと思っています。

（会　長）

ほかに何かご意見ございますか。

（委　員）

これは今回の資料に関することではないかもしれませんが、そもそも、ごみは自治会に委ねている部分が多いと思います。

岩国市もこれから変わっていく、南岩国に大きなマンションが建てられたり、駅前も変わったりしていく中で、（新しく引っ越ししてきた住民などへのごみの出し方の説明を）自治会長にまかせるのではなく、大きなマンションが建てられた場合には、他市から転入される方もいらっしゃると思うので、はじめは市の職員が地元の自治会長と一緒に行くなりして、「岩国市はごみの分別が非常に多いので、岩国市のごみの出し方はこうなっています」という風な説明をしていただけるとありがたい、これはお願いです。

（環境部長）

確かに、最近は自治会に加入される世帯が少ないので、実際のごみの分別の仕方がうまくいっていないところもあるように聞きます。そのあたりは環境事業課の職員が行って、ごみの分別の周知を行っていきたいと思います。その辺は、自治会とも連絡を密にして対応していきたいと思います。

（委　員）

そうですね、是非お願いいたします。

（会　長）

ほかに何かございますか。

（委　員）

現在、汚れたプラスチックはサンライズクリーンセンターで燃やしていますよね。これは新しい法律、新プラ法ができて、収集の方法も変わってきたりするのですか。

（担当課）

来年度ぐらいから徐々に、硬いプラスチックの処理も含めて、施設の整備体制やごみの収集体制をどのようにするのかについて、検討していく予定です。

（会　長）

ほかに何かございますか。

（委　員）

新しいごみ焼却施設（サンライズクリーンセンター）ができたときに、この新しい炉はいろいろなものを燃やすことができる、とのことでしたが、岩国市はこの分別でこれまできちんと出来てきたのだから、分別方法はあまり変更せずいきましょう、というお話があったと思います。

そうした中、お弁当箱などは今まで洗ってプラスチック類に出していたものが汚れたまま、焼却ごみで出せるようになったことにより、焼却ごみが増えてプラスチック類が減っていると思うのですが。

（担当課）

焼却ごみは、あまり増えておりません。

（委　員）

増えていないのですか。

（担当課）

そこまでは増えておりません。洗ってプラスチック類に出していただいている人がいらっしゃるようです。

（委　員）

その時も、洗えば水が汚れると問題になりましたが、プラスチックの弁当箱は簡単に洗えますが、マヨネーズやケチャップの容器や小さい醤油入れなどが焼却ごみで出せるようになったことはよかったと感じています。

（担当課）

歯磨き粉など、以前は中身を全部出して捨ててください、とお願いしていましたが、現在はそのまま出していただいています。

（委　員）

その時も、洗えば水が汚れるということがすごく問題になりました。どっちもどっちよねという話はあったのですが、焼却ごみで出せるようになったことで、随分楽になりました。

（担当課）

現在のサンライズクリーンセンターになり炉も新しくなったので、ある程度のものは大丈夫と聞いております。

（委　員）

現在は、燃やして電力にもなり、燃やした灰はセメントにもなり、リサイクル率は上がっています。そのあたりで考えるとある程度燃やしてよいのではと思うのですが。

（環境施設課）

燃やしたら灰になって終わりですので、限られた資源でもありますので、できればリサイクルして、資源を再商品化して、何回も使うのがベストです。

（会　長）

　ほかに何かございませんか。

（委　員）

今回の市民アンケートの調査結果では、３Ｒ（スリーアール）という言葉の認知度は48％です。アンケート回収率は43.5％しかありませんので、そのうち48％の認知度ですから、３Ｒの認知度は非常に低いと思います。また、３キリ運動も32.1％の人しか知らない、となっています。このことを踏まえて、今度の新しい計画で何か対策をお考えですか。

（担当課）

チラシの全戸配布やイベントでの周知などいろいろな方法を継続していきたいと考えています。新しい対策は、これから模索していくことになりますが。

（委　員）

新しい対策をお考えでしたら、例えば、今回のアンケートで、スマホでごみの分別のところを見ていますか、という設問に対して、利用率がとても低いわけです。ということは、ホームページや広報に載せただけではあまり周知できていないことになるかと思います。何か新しい方法で広報を進めないと行き詰まるのではないかと思います。

（担当課）

紙媒体やホームページ、ＬＩＮＥなどいろいろやり方を検討しているのですが、今後も試行錯誤しながらやっていきたいと思います。

（委　員）

是非よろしくお願いします。参考意見ですが、ごみカレンダーに頼る家庭が非常に多いと思います。その効果を再認識していただけたらと思います。

（担当課）

ごみカレンダーに別に１ページ余分をつけて、ＬＩＮＥでのごみの分別の検索について掲載するなど、いろいろ検討したいと思います。

（委　員）

ぜひ検討よろしくお願いします。

（会　長）

　ほかに何かご意見ございますか。ないようでしたら、本日予定した審議を終了します。